

面様（仮面）

神楽に使われる仮面は、面様（おもてさま）と呼ばれます。面様が神そのものであり、ご神体として崇拝し、最大の敬意を持って迎えられます。それぞれの面様は独自の表情と歴史を持ち、800年以上連綿と続く、神楽の発生と同時に伝えられてきたとされる古い面様も残されています。

彫り物（神楽紙飾り）

紙は、たくさんの神道芸能で使われます。神楽では、特別な和紙を色々な形に切った「彫り物」と呼ばれるものを神庭の四方に飾ります。地域によって枚数と飾り方が異なり、全ての彫り物に違った意味があります。